

外部評価委員の意見と本校の回答

【目標１】多様な担い手や労働力の確保

１ 新規就農に関する相談及び支援・指導体制の整備

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
1 農起業支援ステーションによる就農相談の実施	農起業支援ステーションへ県域で対応する就農相談窓口を設置して、効率的で効果的な就農への誘導を図ります。（就農企画科）	①あいち農林漁業スタートガイド「あいちから」は見やすく、活用しやすいと感じた。また、A I も活用されており、今後の農家経営にも役立つツールであると感じた。W e b 上の情報は更新が必要であるため、内容の充実に努めてほしい。「あいちから」では、いろいろなアクションを期待している。 ②就農相談機能の具体化として支援制度の提供や営農指導も必要だが、地域が受け入れてくれる土台を構築することも大切。地域コミュニティを理解することが円滑な就農につながると思う。	①あいち農林漁業スタートガイド「あいちから」について、コンテンツの充実やS N S等を活用した情報更新を図ることにより、利用者数の向上及び利便性の向上に努めてまいります。 ②就農希望者が円滑に就農できるように各地域の農起業支援センターと連携してまいります。
2 円滑な就農に向けた研修等への誘導支援	就農相談結果に基づいて、適切な支援を相談者に対して行います。（就農企画科）	・チェックシートの活用、動画の作成等様々な工夫があり成果につながっている。	・チェックシートについては、農大W e b ページに公開しました。今後、運用の中で改善を図ってまいります。
3 新規就農者情報の共有・活用による担い手の確保	就農相談後、新規就農に至った者の就農時や就農後のデータを蓄積することにより効率的・効果的な担い手確保対策に活かします。（就農企画科）	・オンライン等の活用は学生のニーズにも合うと考えられるため、意見を聞きながらより活用しやすい環境ができるとよい。	・就農ガイダンスの動画を、あいち農林漁業スタートガイド「あいちから」に搭載することで、より多くの就農希望者が視聴できる環境を整えてまいります。

2 意欲の高い学生等の確保に向けた魅力ある学校づくり

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
2 情報発信の強化	オープンキャンパス等の充実強化により、高校生の農大の見学・学生との交流を促進します。（学務科）	①非農家子弟や保護者にも農大を知ってもらうことが大事。単なる紹介でなく、事例を含めて行くとわかりやすい、社会に出て役に立つということが分かるようにして欲しい。 ②オープンキャンパスの参加者や入学した学生にアンケート調査等を行い、学生のニーズをつかむ。その結果を分析し、どこにアプローチすることが効果的か考える。	①教員と学生が一丸となってオープンキャンパスの運営に関わることで農大の特徴や魅力を伝えてまいります。特にR8は作業体験できる回を設けて、実習のイメージがわくよう努めてまいります。 ②アンケートの結果をもとに効果的なオープンキャンパスのあり方について検討してまいります。
	インターネット等SNSを通じた学生等参加による学校紹介を促進します。（企画研修部、教育部）	・広報は大事。SNSは学生・教員のどちらが発信しているのか。 ・高校の生徒もSNSをよく見ている。できるだけ更新すると良いと思う。	・SNSの発信は学生が多いです。 ・今後も積極的に情報発信してまいります。
	専攻ごとの魅力をPRする広報活動等を強化します。（農学科）	・農大には農産物を自ら育てたり寮生活で仲間をつくったりと、すでに魅力があるので全面的にPRすれば良いと思う。	・農大の特徴や魅力を知ってもらえるよう引き続きPRしてまいります。
2 情報発信の強化	メーカー等との連携による独自商品の開発を推進します。（農学科）	・農大ブランドづくりの一環で、加工品の商品化は学生にとって魅力になるため取り組んで欲しい。	・加工方法の習得は授業の一環で実施しております。製造業者との連携も検討し、食品衛生法に則り加工品の商品開発を検討してまいります。
4 農業高校等の連携強化	農業高校との学生・職員間の交流をプロジェクト発表、意見交換、研修会等を通じて充実します。（農学科、学務科）	・農業高校との連携は是非続けてもらいたい。	・研修等の教育連携、発表会交流等の研究連携、進路ガイダンス等の進路連携など各種施策を通じて、高校で基礎を学び、農業大学校でさらに専門性を高めるための連携を継続して進めてまいります。
5 時代に対応した入学制度の検討	受験生や入学生の調査をもとに時代に対応した募集内容や受験方法等の見直しを計画的に行います。（学務科）	①「なぜ農大を選んだかのか？」という選択理由を分析するとよい。入学生にアンケート調査を行い、どこにアプローチすれば効果的かを見極めるとよいのではないかと。県外からの学生が愛知県を選んだ理由はわかるか。入試制度の見直しは引き続きお願いしたい。 ②学生は全国どのあたりから来ているか。	①毎年度、新入生にアンケートを実施しており、入学動機や情報収集手段、農業への関心、進路希望等を把握するとともに、求める学生像との整合性を検証し、効果的な広報活動及び意欲と適性のある学生を確保するための入試制度の見直しを計画的に行ってまいります。 ②R7は島根県、岩手県、R8は島根県、岡山県、富山県、東京都、岐阜県等の遠方から入学した実績がございます。

3 多様な労働力の確保に向けた支援

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
1 農福連携の推進	福祉事業者向け研修を実施することにより農福連携の取組を推進します。 (就農企画科)	・ どのような自分になりたいか、どのような農業がやりたいのか目標を掲げてKPIを設定しフォローアップ体制を取ることを。	・ 研修受講生の農業理解を促進し、目指す農業の形態が明確になるよう支援してまいります。

【目標2】地域農業を支える人材の育成及び就農支援

1 学校教育の充実

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
1 多様な学生に対応したカリキュラムの強化	時代に対応したカリキュラムの見直しを行います。（学務科）	①これからの農業従事者は栽培の知識・技術だけでなく、流通・経営まで一連の学びが必要。アントレプレナーシップ教育等を含めた学びも導入していく必要があるのではないか。そのためにも学校の内だけでなく外にまでフィールドを広げることが必要。 ②スマホで答えが出てしまうので自分の頭で考える機会が減っている。考える力を養う教育をお願いしたい。農大でしかできない特別な何かを見つけ実践し、ものの見方考え方を育てることが重要。	①最新技術を習得させるだけでなく、環境変化や市場ニーズの変化に柔軟に対応し、経営的な視点を持って地域農業を担うことができる人材の育成を視点にカリキュラムを編成してまいります。 ②実践教育を通して学生自らが考える能力を育む指導を行ってまいります。
	学生の学力や能力等の情報を共有化するとともに、専門分野の知識を学ぶ能力に応じた取り組みを図ります。（農学科）	・学生として学べる就業（職）前の二年間はいかに学力を身に着けること。資格を取ることに。	・学生が意欲をもって学力向上や資格取得に取り組めるよう支援してまいります。
	新技術や地域課題、継続課題等プロジェクト学習の高度化を図ります。（農学科）	・評価Cとあるが、そもそも全国大会へ出場できる人数が複数人進むことができるのか。また、記載の中でブロック大会に何人出場できたかを記載した方が良いのではないかと。	・プロジェクト発表と意見発表の全国大会を対象としたため、出場1名以上としました。また、ブロック大会には各1名が出場したため記載します。
	地域イベントやボランティア等学生による課外活動の実施を支援し学生の社会性向上を図ります。（学務科、農学科）	①参加したイベントはどういった内容か。 ②2回参加することは難しいか。いろんなイベント（JA・市町・商工会等）に参加することは、コミュニケーション力の向上にも良い取組で、農業の魅力を感じることができる。セッティングが大変かと思うが、工夫してやって欲しい。目標を〇回以上としなくても良いかと思う。出店料が課題の場合、手伝いから始める方法もある。より多くの学生が参加して欲しい。	①学生がステージに立って農大についてのクイズ、ブースを借りて米、野菜、鉢花販売をしました。 ②以前参加していた岡崎市のイベントが出店料の関係で今回参加できませんでしたが、イベント等に参加することの意義を学生に伝えていきます。参加の可能性は広く存在するので、情報収集し参加の機会を広げてまいります。
3 学生のコミュニケーション力・社会性の向上	学生や指導者向けの研修会等の実施、意見発表などの参加促進により学生のコミュニケーション力を強化します。（学務科、農学科）	・「スピーチをさせた」とあるが、全員か。また内容は。 ・人材育成に必要な取組である。	・各専攻で学生全員が交代で取り組んでいます。人前で発言する機会を持つことで、学生の相互理解が進みコミュニケーション能力が向上しました。

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
4 高度な教育環境の整備	メーカー等と連携し先進的な機器や技術の実習指導を実施します。（農学科）	・施設・設備の充実と生徒のニーズを踏まえた学習内容の精選、技術革新に対応するための教員の資質向上を図りたい。そのためにも、企業や関連団体との連携をさらに強化するとよい。	・施設・設備の充実と学生のニーズを踏まえた学習内容の充実を図るため、企業と連携し、協力して学生の指導にあたってまいります。
	先進技術に対応した施設・機器の整備を計画的に推進します。（管理課、企画研修部、教育部）	・ICTを推進してもらいたい。	・学生の教育のために必要なICT施設設備、機器の整備を計画的に進めてまいります。

2 学生の就職・就農の支援

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
1 進路別指導の強化	キャリアごとに必要な各種免許・資格の取得を推進します。（農学科）	・ 学生が取得したい資格は何か。	・ 大特免許を希望する学生が多いです。就職が決まっている学生には必要な免許・資格の取得を促しており、希望する研修が受講できるよう努めてまいります。
	学生への進路指導セミナー等を充実強化します。（農学科）	・ 県外から来た学生がいるとのことだが、就職先にミスマッチが生じないよう配慮して欲しい。 ・ 農業関連職への進路に対する教育、アプローチが弱いように感じる。早期の離職者が多いのが気になる。	・ 農業法人や企業等の参加を募り、学内で就職相談会を開催し、学生が幅広く話を聞く機会を設けています。 ・ 会社見学・職場体験会等に積極的参加を呼びかけています。 ・ 求人票を分野別にファイリングして学生が探しやすくしています。
2 就農指導・相談体制の強化	農起業支援ステーションと連携し就農希望学生向けの相談機能を強化します。（就農企画科、農学科）	・ 就職後に上手くいかず離職してしまった卒業生の相談も受け入れると良いと思う。相談しに帰ってこれる農大であっても良いと思う。	・ 離職者のうち就農を希望する卒業生に対しては農起業支援ステーションで相談対応しております。同窓会だよりで相談体制の周知を図ってまいります。
	雇用就農した卒業生との意見交換会等雇用就農者向けのセミナーを強化します。（農学科）	・ 就職、就農するためには、その業界のことをしっかりと理解する必要がある。「知らなければ選べない。」「知らなければ、続かない。」と考えられるため、先輩など、先人の活用は大変有効である。	・ 従前は卒業生等を講師として招へいし本校で開催していましたが、今後は卒業生が経営や雇用就農している農業法人等へ訪問することも検討し、開催してまいります。

3 研修生（新規就農希望者）の育成及び就農支援の強化

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
1 研修内容や運営方法の充実	経営やマーケティング等の知識や技術に関する指導を強化します。 (担い手研修科)	①様々な取組がなされており、成果につながっている。引き続き、支援の充実が図られるとよい。 ②新規はファーマーになりたいのかファームマネージャーになりたいのか、それによって支援の方法も変わると思う。	①引き続き、支援の充実を図ります。 ②研修生の意向を面談で把握し、必要な支援を行ってまいります。
2 現場と連携した就農支援の強化	関係機関との連携により独立自営就農や農業法人への雇用就農に向けて円滑な誘導を図ります。 (就農企画科、担い手研修科)	・ A B C 評価のうち B 評価が「60%以上」で「目標をほぼ達成」で良いのか。 就農率70%の目標では、実績67%はほぼほぼ A だと思う。区分を見直すのもどうかと思うが、「目標をほぼ達成」の B 評価（60%以上）と「100%以上」の A 評価（目標を達成）が開きが大きいと思う。これからの評価の時に検討いただきたい。現状だと実績が 6 割でも 9 割でも同じ B 評価となってしまう。	・ 目標が達成できるよう引き続き就農支援を行ってまいります。また、評価の区分の見直しを検討してまいります。

【目標3】地域農業を担う農業経営者の育成支援

1 経営の発展段階に応じた体系的な研修の充実・強化

項目	取 組	外部評価委員の意見	意見に対する回答
2「あいち農業経営塾」の充実・強化	研修成果を確認するため、研修修了生の状況調査を実施します。 (担い手研修科)	①修了生のアフターフォローは良いと思う。フォローアップの機会があればさらに良い。 ②経営塾を過去に受講した人でも必要に応じて再度研修を受けても良いと思う。	①フォローアップの機会としては登録専門家による経営相談などで対応します。 ②経営及び技術に関する各種の研修を実施してまいります。